

VMware + NetApp 導入事例



KING JIM 株式会社キングジム

各種のファイリング用品をはじめ、ラベルライター「テブラ」やデジタルメモ「ポメラ」などのヒット商品でも知られる株式会社キングジム様(以下、キングジム)では、社内システムの仮想化プロジェクトを推進中です。大量の業務サーバ群やストレージを集約し、より最適なITインフラを実現するのが狙いです。この新たな仮想化基盤を支える製品として、同社ではネットワークが提供する仮想化ソフトウェア「VMware Infrastructure 3」とネットワークストレージ「NetApp FAS2050A」を採用。運用管理の効率化や環境負荷軽減を実現すると同時に、今後のビジネスを支えるプライベート・クラウドの基盤としても活用していく予定です。

「VMware」+「NetApp」で仮想化基盤を構築 物理環境を集約しプライベート・クラウドを目指す



株式会社キングジム
情報システム部
システム管理課長
大川 悦二 氏



株式会社キングジム
情報システム部
システム管理課
小島 祐介 氏



三信電気株式会社
ソリューション営業本部
ネットワークシステム営業一部
一課長
福井 洋 氏



三信電気株式会社
ソリューション営業本部
ネットワークシステム営業一部
一課主任
吉原 宣之 氏



三信電気株式会社
ソリューション営業本部
首都圏システムサポート部
二課 チーフエンジニア
石村 健太郎 氏

「ポメラ」などの新商品を武器に 新たなマーケットを開拓

オフィスに欠かせないファイリング用品のリーディング・カンパニーとして、80年余りに及ぶ歴史を誇るキングジム。国内トップシェアを誇るパイプ式ファイル「キングファイル」を筆頭に、多彩な商品群を提供し続けている。また、1988年に販売を開始したラベルライター「テブラ」は同社の重要な主力商品に成長。幅広いラインナップを取り揃え、多様なニーズに対応している。

さらに、今後のビジネスの牽引役として期待を集めるのが、2008年に登場したデジタルメモ「ポメラ」だ。この製品では、機能を極限まで削ぎ落とすと同時に、わずか2秒での起動、快適なタイピングを実現するキーボード、乾電池による長時間駆動など、使い勝手に徹底してこだわった。そのコンセプトは多くのビジネスユーザーの共感呼び、販売開始から1年で約9万台という大ヒット商品となった。

同社ではこのほかにも、カラフルな色使いが特長の文具・雑貨「Toffy」シリーズや勤怠管理システム「クロックオン」など、様々な製品/ソリューションを展開。新たな顧客層を開拓することで、さらなる飛躍を果たそうとしている。

キングジム 情報システム部 システム管理課長の
大川 悦二氏は「現場部門の要求を形にしてい
くことが、我々に課せられた最大のミッション。
ユーザーにとって使いやすく、かつ効率的なシ
ステム環境を目指しています」と話す。もっとも、業務
のIT化が進んだことで、新たな課題もまた生まれ
てきた。特に問題になったのが、サーバ台数の急速
な増加だ。同社では1システム・1サーバ方式を採用
してきたため、サーバ台数が約70台にも達して
しまったのだ。

これだけのサーバが稼働するとすると、運用
管理にもかなりの工数が掛かる。中でもバック
アップ業務の負担は相当なものだったという。
「従来は各サーバにDAT装置などを装着し、個別
にバックアップを取得してしていました。このため、
テープ交換などの作業に、大変な手間と時間が
掛かっていました」と大川氏は話す。しかも、問題
はこれだけではなかった。キングジム 情報シ
ステム部 システム管理課の小島 祐介氏は「導入
から数年を経過したサーバは、最新の製品と比較
して性能面で見劣りします。また、内蔵ディスク
の容量が小さく、Cドライブの容量がどんどん圧迫
されてくる点も不安要因でした」と説明する。

同社では、こうした課題を解消する方法として、
サーバ/ストレージの仮想統合を決断。そのための
製品として、ネットワークが提供するサーバ
仮想化ソフトウェア「VMware Infrastructure 3
(以下、VMware)」とネットワークストレージ
「NetApp FAS2050A」を導入した。同社のIT
パートナーである三信電気の吉原 宣之氏は
「キングジム様では今回が初の仮想化導入だった

VMware+NetAppによる 仮想化基盤の構築に着手

環境変化への即応が要求される現代のビジネ
スにおいては、IT部門の果たす役割も大きい。

<企業概要>

KING JIM

本 社：東京都千代田区東神田2-10-18
創 業：1927年4月
U R L：http://www.kingjim.co.jp/
事業概要：「キングファイル」をはじめとするファイリング用品
や、ラベルライター「テブラ」デジタルメモ「ポメラ」
などの製造・販売を手がける。地球環境保全にも
積極的に取り組んでおり、再生素材の活用や
使用済みカートリッジ回収など様々な活動を行って
いる。

<パートナー概要>

三信電気株式会社

本 社：東京都港区芝4-4-12
設 立：1951年11月1日
U R L：http://www.sanshin.co.jp/

VMware + NetApp 導入事例

だけに、本当に大丈夫か心配されている点多かった。そこで、ネットワークの協力でデモをご覧頂いたり、事例をご紹介したりして不安感の払拭に努めました」と話す。特に性能に対する懸念が大きかったため、事前に綿密なサイジング作業を実施。また、信頼性・可用性についても、「VMware HA」を採用することで不安を解消した。

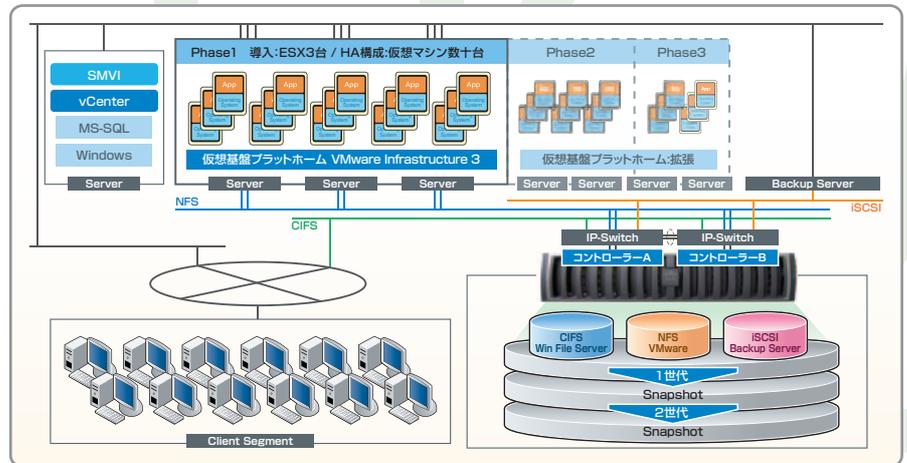
14システムを3台のサーバに集約 将来的には約40システムを仮想化

VMwareとNetApp FAS2050Aによる仮想化基盤は、2009年9月末より本稼働を開始した。小島氏は「ファーストステップでは、社内で稼働する約70台のサーバのうち、保守期限切れが迫っているものから仮想環境への移行に着手。EDIシステムや固定資産管理システムなど、9システムをVMware上へ移しました」と説明する。

これと同時に、電子決裁システムやワークフローシステムなど、5つのシステムを仮想環境上で新規構築。取材時点ではこれら14システムが3台のVMware ESXサーバ上で稼働していた。「最終的には、約40システムをVMware上へ集約する予定です」と小島氏は続ける。物理環境から仮想環境への移行も非常にスムーズに進んだとのこと。三信電気の石村 健太郎氏は「今回移行対象となった9システムのうち、8システムについては2日間で移行が完了。残りの1システムについても、2週間後には無事仮想環境へ移せました」と語る。

事前に懸念していた性能への不安も杞憂に終わった。大川氏は「固定資産管理システムの一部業務では、処理時間が以前の半分に短縮できたケースもあります。レスポンスが速くなったとユーザーからも好評です」と語る。また、VMwareを導入したことで、Windows 2000ベースで構築された業務システムを延命させることも可能になった。小島氏は「新規のサーバを立てたいと思った場合も、今までのようにわざわざ物理サーバを手配する必要がない。業務部門の要求にも、スピーディに応えられるようになりました」と満足げに語る。

環境保全に力を入れている会社にとっては、物理サーバの台数が減ったことも大きなメリットだ。「サーバの消費電力を低減できる上、サーバールームの空調設定なども見直せます。CO₂排出量削減の取り組みにも大きく貢献してくれていますね」（大川氏）。



ユニファイドストレージ環境が 運用効率化やIT投資の最適化に貢献

今回のプロジェクトでは、NetApp FAS2050Aによる効果も見逃せない。まず1点目は、バックアップ業務の効率化だ。VMwareとの連携を実現するツール「SnapManager for Virtual Infrastructure (SMVI)^{*1}」を導入し、稼働中の仮想サーバのバックアップを瞬時に取得できる環境を構築。小島氏は「今まで夜間に数時間掛けて取得していたバックアップが、あっという間に終わってしまう。これには本当に驚かされましたね」と語る。SMVIは仮想環境のバックアップが容易に行えるだけでなく、仮想マシン単位/ボリューム単位でのリストアなど柔軟な運用も可能。テープ交換作業も不要になり、大幅な運用効率化が実現できた。

また、当初は仮想化を考えていたファイルサーバについても、NetAppの機能を利用して同じストレージ内にCIFSでマウントする方式を採用。「今後ファイルサーバ領域を増強したいと思った場合も、NetAppならFlexVol^{*2}機能で簡単に容量を変更できます。こうした柔軟な運用が実現できるのもNetAppならではのですね」（小島氏）。

さらに、もう一つ高く評価されているのが、NetAppのDeduplication(重複排除)^{*3}機能だ。「仮想化を進めていくと絶対にストレージが不足すると考えていたのですが、重複排除が効いているおかげで、容量を50%以下に抑えられています。リソースを有効活用できるのは非常にありがたい」と満足げに語る小島氏。三信電気の福井 洋氏も「経済環境が厳しい時代ですから、我々としてもお客様のIT投資の効果を最大化する提案を行っていきたい。VMwareやNetAppは、そのための有効な

武器になると考えています」と話す。

次世代に向けた仮想化基盤を確立したキングダムだが、今後もDRシステムの構築など様々な取り組みを展開していく。将来的にはIIT環境のプライベート・クラウド化も視野に入れているとのことだ。大川氏は「仮想化に取り組んで良かったというのが現在の率直な感想です。今後もこの基盤を活用し、最適な業務環境をユーザーに提供していきたい」と力強く語った。

^{*1} SnapManager for Virtual Infrastructure (SMVI)
VMware ESXサーバのスナップショットとNetAppストレージのスナップショットを自動連携します。
VMware ESXサーバとNetAppストレージの間の連携スクリプトの作りこみが不要となり、SMVIの操作のみで簡単にバックアップ、リストアを行うことができます。

^{*2} FlexVol
物理的なストレージを意識することなく、柔軟に管理や移動を行うことができる仮想ボリュームを作成します。業務時間中でもオンラインでの、ボリュームの拡張・縮小を自由に出来ます。

^{*3} Deduplication(重複排除)
重複しているブロックを見つけ出し、重複部分を排除して、オリジナルのオブジェクトのみを参照することで、ストレージ容量の効率化を可能にします。特にVMwareなどの、同一のOS環境が複数存在する場合などには効果的です。

お問い合わせ先

 **Networld**
株式会社 ネットワールド

E-mail: vmware-info@networld.co.jp
URL: <http://www.networld.co.jp/>

本社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-4 オリックス神保町ビル TEL:03-5210-5085,5020,5031,5095
西日本事業所	〒530-0047 大阪市北区西天満4-14-3 住友生命御堂筋ビル TEL:06-6367-5631
名古屋営業所	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-23-3 第2アスタービル TEL:052-588-7611
九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑紫通ビル3階 TEL:092-461-7815

この印刷物は再生紙を使用しています。
*記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。

2009年12月